

# 西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.30 2008年2月号

かなり難しい問題ですが、今月は人が生きる目的について考えてみたいと思います。人は何のために生きるのかということです。

ひょっとしたら、お金持ちになって豊かになるためだという方がいるかもしれませんが、確かに、生きていくためにはお金が必要ですが、でも、これだと豊かにならないと生きる目的がなくなってしまいますし、そもそも豊かかどうかを決めるのはお金でなく、自分の心ではないでしょうか。

では、たとえば大企業の社長や政治家といった社会的地位のある人になり、世の中を良くするために人は生きると考えるのはどうでしょうか？ なんとなく崇高で正しいような気もしますが、これも、社長や政治家にならなかった人は生きる目的がなくなってしまいます。

それでは、子孫繁栄のためというのはどうでしょうか？ 人間社会が繁栄するよう、子どもたちを生んで育てるために人は生きているという考えです。でも、やはりこれも、子どもを生みたくても生めない人の生きる目的がなくなってしまいますので、普遍的に通用するものではなさそうです。

私はずっと、人が生きる目的は無いと思っていました。地球に生きるその他の動植物と同じく、人は自然の摂理によって生かされているだけで、人だけが特別な目的を持って生きているとは思えなかったのです。

でも最近、稲盛和夫氏や森信三先生がおっしゃっているように、自分の仕事をとおして、世のため人のために生きるのが人生の目的であるという考え方に惹かれつつあります。

「生かされているだけ」というのは自然の摂理としてはやはりあると思っています。でも、人以外に、生きる目的について考える動物はいなさそうですから、何のために生きるのか、というときは、すべての動植物に通用する考え方ではなく、人としての意味を考えなければならないのかもしれませんが、そうすると、稲盛氏や森先生の言葉はとても共感できるように思えます。

みなさんは、人は何のために生きていると思われませんか？

